

水辺活動

プログラム名	湖岸の生物観察 ※団体主導			
概要	箱メガネ等を使用し、湖岸の生き物を採取し、観察する。 ※入水は膝丈までとし、海水浴と区別する。			
ねらい	磯に入って生き物を観察したり、生き物に触れたりして、自分の住んでいる地域との環境の違いを感じながら自然と親しむことができる。湖岸の漂流物などから、環境問題について考えるきっかけができる。			
条件	対象	全年齢	人数（指導者人数）	～200人（5人以上）
	活動目安時間	90～150分	活動時期	4～10月
	活動場所	湖岸	費用	不要
	下見	要	活動名簿提出	不要
持ち物・準備	（個人）軍手、帽子、飲料、タオル、濡れてもよい靴（サンダルやクロックスタイプは不可） Tシャツ、ズボン、濡れてもよい服 （貸出）図鑑、バケツ、箱メガネ、たらい、説明用パウチ			
安全上の留意点 （対策方法）	転倒、石場での足のケガ（注意喚起を行う。靴着用の徹底） 熱中症、脱水症状（適度な水分補給と休憩、帽子の着用を徹底） 自然災害（気象状況の把握、落雷等の恐れがあるときは速やかに艇庫へ避難） 有毒生物等によるケガ（危険生物を見つけたら所員や指導者に報告、長袖長ズボンの着用、事前の注意喚起） 溺水（活動範囲よりも沖にいかない）※入水は膝丈まで			
活動内容（手順）				
事 前①指導者配置の決定：所定の「活動プログラム時の団体指導者の役割分担表」を作成、提出 ②グループ編成：実施に適したグループ編成をし、活動名簿を提出（活動名簿はホームページからダウンロード可能） ③研修生への事前指導：活動の「概要」「ねらい」「安全上の留意点」等を指導、服装や持ち物確認				
活動前①打合せ（活動10分前）：艇庫前で所員と団体責任者、担当指導者にて実施 実施判断：気象を基に、協議の上実施 確認事項：人数、グループ数、健康状態、活動範囲、活動時間、服装、貸出備品（裏面参照）				
活 動①指導：指導者より 活動の説明 ②活動開始 ③確認事項：人数、健康状態 ④まとめ・振り返り：活動の感想を発表 ⑤片付け：バケツ、箱メガネ等をすべて洗って所定の場所で干す（指導者は、バケツ等の片付けの状況を確認） 艇庫5番の棚にあるハンドソープを使い、水道で手を洗う（使用後は元の場所へ戻す） ⑥報告：所員へ終了、研修生の健康状態を報告				

<その他>

※活動終了後、採った生物は浜名湖に戻す（持ち帰らない）

※活動場所→東側は白い看板まで。西側はサイクリングロード手前まで。

★毒のある生き物として、主に、赤クラゲ、オコゼ、アカエイが挙げられる。（裏面画像参照）

◆赤クラゲに刺されたら…海水で患部を洗う→ゴム手袋をしてピンセットで触手を取る→熱いお湯（45℃以下）に30分以上浸ける→医療機関へ

◆オコゼに刺されたら…流水で患部を洗浄する→棘を抜く→毒を吸い出す→熱いお湯（45℃以下）に30分以上浸ける→医療機関へ

◆アカエイに刺されたら…海水で患部を洗う→毒針を抜く→熱いお湯（45℃以下）に30分以上浸ける→医療機関へ



赤クラゲ



オコゼ



アカエイ

浜名湖で代表的な有毒生物

《湖岸観察で使う道具の場所・片付け方》



準備①

艇庫5番内、入って正面
 中に箱メガネがある、その上に凶鑑がある
 ※箱メガネ、凶鑑はグループ毎1個ずつ(目安)



準備②

棚上にバケツがある。
 ※バケツはグループ毎1個ずつ(目安)



片付け(準備②の棚の横)

- ①バケツ・箱メガネ等すべて水洗い
- ②箱メガネは上の2段、バケツは下の2段を使用

※注意

透明なプラスチックを必ず上にあること
 (下記写真参考)

